

(様式 4)

別紙 2

## 論文審査の結果の要旨

学位申請者 WIJESINGHA DASANAYAKALAGE

UDITHA AKALANKA DASANAYAKA

本論文は「Local Knowledge Adaptations for Landslide Disasters Risk Reduction in Rural Mountain Communities (中山間地域における地すべり災害リスク軽減を目的としたローカル・ナレッジ活用に関する研究)」と題し、全 6 章より構成されている。

第 1 章では、本研究の目的、研究対象や鍵概念など、研究の全体像を説明するとともに、研究目的を達成するための方法論を提案している。

第 2 章は、本研究の理論的背景を説明している。ローカル・ナレッジの概念、特徴や限界等について、また災害リスク軽減とローカル・ナレッジの関係等について既往研究のレビューを行っている。

第 3 章では、スリランカの中山間地におけるローカル・ナレッジの地すべりリスク低減への活用に関する実証的な知見をまとめた。本章では、スリランカの 2 つの集落の事例において、フィールドワークと半構造化インタビュー調査を実施し、地すべり災害に関するローカル・ナレッジの主要な構成要素を特定した。さらに、質問紙調査によって、地域コミュニティにおけるそれらの構成要素の認知度を測定した。

第 4 章では、日本の地すべり多発地域におけるローカル・ナレッジの適用事例を取り上げた。本章では、地すべり災害リスク軽減に関するローカル・ナレッジの主要な構成要素を特定し、その結果をもとに、地域におけるこれらの構成要素の認知度を測定する質問紙調査を行った。さらに、文化的コンセンサスモデルを用いて、これらの回答の共有度を評価した。

第 5 章では、ローカル・ナレッジの伝達のために重要な、ソーシャルキャピタルの特徴とその影響を、スリランカでのデータをもとに明らかにした。インタビュー調査と質問紙で得られたデータを用いて、社会的ネットワーク分析およびテキスト分析によって得られた知見をまとめた。

第 6 章は結語であり、本研究で得られた知見とともに、研究の限界および提言をまとめた。結論として、本研究の成果は、ローカル・ナレッジに基づいた実践が、地域住民の災害への適応度を向上させたことを示唆するものである。以上より、本論文は工学上及び工業上貢献するところが大きく、博士(工学)の学位論文として十分な価値を有するものと認める。

審査委員主査 松 田 曜 子 印